

<福島県知事賞>

能登半島地震による被災と税

本宮市立本宮第二中学校 3年 高橋 羽音

私は能登半島地震をきっかけに復旧、復興に税金が使われていることを知りました。

私は地震が起きた時、元日だったため家族とお出かけをしていました。家に帰ろうとなり、車に乗った瞬間に緊急地震速報が鳴りました。その直後に車と一緒に大きく揺れ、とても怖い気持ちに駆られました。能登半島から離れた位置にいたのにこれ程揺れるなんて能登半島の方はどのくらい揺れたのだろうと思いました。元日でもあったので多くの方が帰省をしていたであろうそんな中、突如襲ってきた大地震。私は恐怖でいっぱいになりました。また東日本大震災の時みたいに多くの被害が出てしまうのではないかと、不安でいっぱいでした。

私は生まれた時から福島県に住んでいるので東日本大震災を経験しています。しかし、私はまだ1歳で幼くほとんど覚えていませんでした。母から当時の話を聞くくらいであり当時の状況などを知りませんでした。そんな中、テレビで出てきた能登半島地震直後の映像をニュースで見た時に絶句しました。津波によって家は破壊され、道路もひび割れて通れない状況。地震によって起きた火事で焼け野原になった場所。地震前と後の写真を見比べてみると原型を留めていないほどたくさんの瓦礫がありました。東日本大震災の時よりは少なくとも260人というたくさんの命が奪われ、まだ見つかってない人もいます。地震は多くのものを奪っていく、そう思いました。6ヶ月たった今も復旧が進まない。でもその復旧ってどのように行っているのか疑問に思いました。壊れた建物は自分で負担して壊すのか、壊れたあとはどうやって新しく建てるのか、分からないことが沢山ありました。調べていく中で、現地に赴き救助活動、捜索活動を行った自衛隊や全国の警察、消防士の方々の派遣費用などは全て税金でまかなわれていることを知りました。さらに、仮設住宅や非常食の提供、堤防や道路の復旧にまで税金が使われていることがわかりました。また、被災した人たちには

復興特別所得税というものがあるということがわかりました。東日本大震災をきっかけに作られた復興特別所得税、少しでも被災者の方々が早く復興、復旧できるように作られた特別措置。能登半島地震をきっかけに私はもっと税について知るべきだなと思いました。

東日本大震災や能登半島地震、多くの被害がありました。今まで通りに生活をできなくなった人が大勢います。それでもお互いに手を取り合い支えていくことが社会への復興、復旧に近づける第一歩なんだと思いました。日頃から税金を払えばいつか必ず誰かの助けになる日が来る、そう思うことが出来ました。私も将来大人になり働く時には税金をきちんと払い、少しでも誰かの助けになればいいなと思いました。